



# 株式会社セック

**S**ystems **E**ngineering **C**onsultants Co.,LTD.

<https://www.sec.co.jp/>

銘柄コード：3741

## 2023年3月期 第2四半期 決算補足説明資料

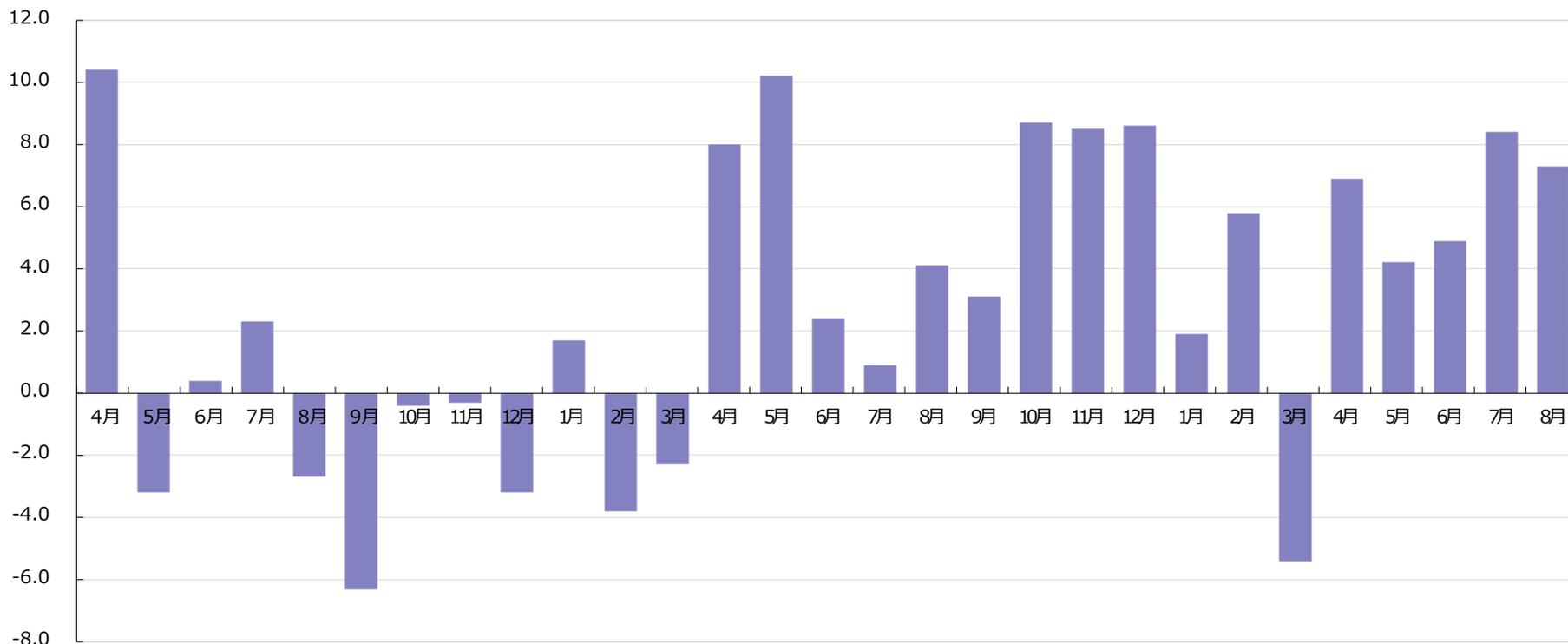
2022年11月10日

# 2023年3月期第2四半期 決算概要

## 2023年3月期第2四半期の事業環境

情報サービス業売上高前年同月比推移（経済産業省：特定サービス産業動態統計）

単位：%



2021年4月以降の前年同月比の月別売上高は、2022年3月を除き増加しており、IT需要は全体的には概ね堅調と推察される。

# 2023年3月期第2四半期総括

## 売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高、前年同期比で増収増益

売上高	: <u>3,369</u> 百万円	前期比	16.3%増		
営業利益	: <u>451</u> 百万円	前期比	25.1%増	利益率	13.4%
経常利益	: <u>480</u> 百万円	前期比	26.0%増	利益率	14.3%
当期純利益	: <u>336</u> 百万円	前期比	25.6%増		

## 受注高は過去2位、受注残高は過去最高

受注高	: <u>3,263</u> 百万円	前期比	10.8%増
受注残高	: <u>3,092</u> 百万円	前期比	18.3%増

## 先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

- ・ 移動体通信事業者向けのサービス系の開発が回復基調となり、官公庁向けの開発、宇宙天文分野の開発も堅調に推移するなど、需要構造の変化に全BF最適化の視点で対応した。
- ・ 売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高となり、増収増益となった。
- ・ 受注高は前期を上回り過去2位となり、受注残高は過去最高を維持している。

# 第2四半期損益計算書

	2022年3月期第2四半期 (百万円)	2023年3月期第2四半期 (百万円)	前期比 (%)	期初予想 (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	2, 8 9 7	3, 3 6 9	1 1 6. 3	3, 1 0 0	1 0 8. 7
売上原価	2, 0 5 5	2, 3 9 6	1 1 6. 6	2, 1 9 5	1 0 9. 2
売上総利益	8 4 2	9 7 2	1 1 5. 5	9 0 5	1 0 7. 5
販売管理費	4 8 1	5 2 1	1 0 8. 4	5 4 0	9 6. 5
営業利益 (営業利益率)	3 6 0 (1 2. 5%)	4 5 1 (1 3. 4%)	1 2 5. 1	3 6 5 (1 1. 8%)	1 2 3. 6
経常利益 (経常利益率)	3 8 1 (1 3. 2%)	4 8 0 (1 4. 3%)	1 2 6. 0	3 9 0 (1 2. 6%)	1 2 3. 3
当期純利益	2 6 7	3 3 6	1 2 5. 6	2 7 0	1 2 4. 6

売上原価 外注費が大幅に増加  
(外注費 10.3億円、前年同期比21.9%増／売上高外注比率30.8%、前期29.4%)

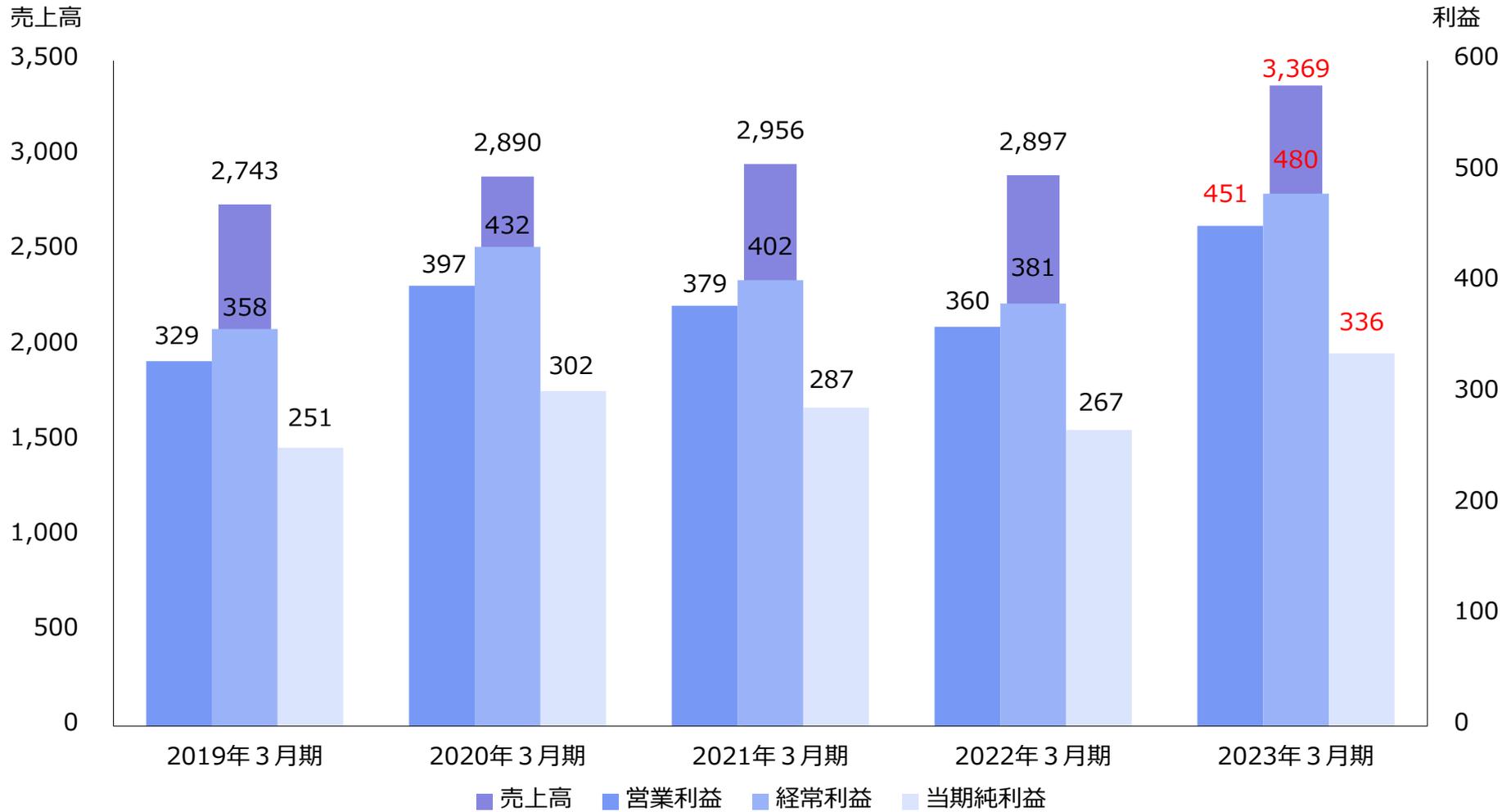
販売管理費 新入社員の増加などにより労務費が増加、オフィス増床により家賃、費用が大幅に増加  
研究開発費は31百万円で、前年同期比で10.4%増

営業外損益 研究開発の補助金収入が発生、受取出向料が増加

# 第2四半期決算業績推移（過去5年）

売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高

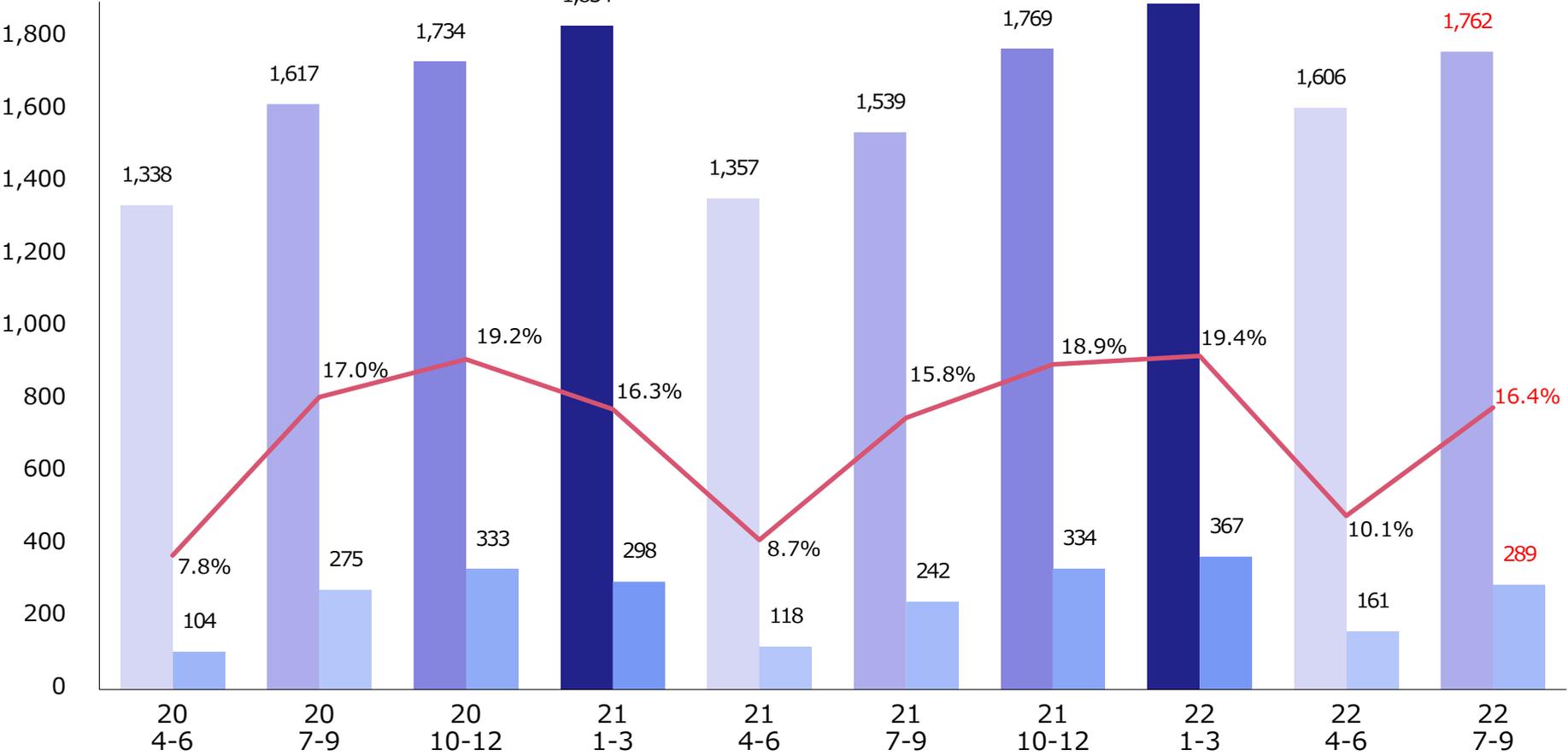
(単位：百万円)



# 四半期業績推移 (P L)

前年度第3四半期から、4四半期連続の増収増益

(単位：百万円)



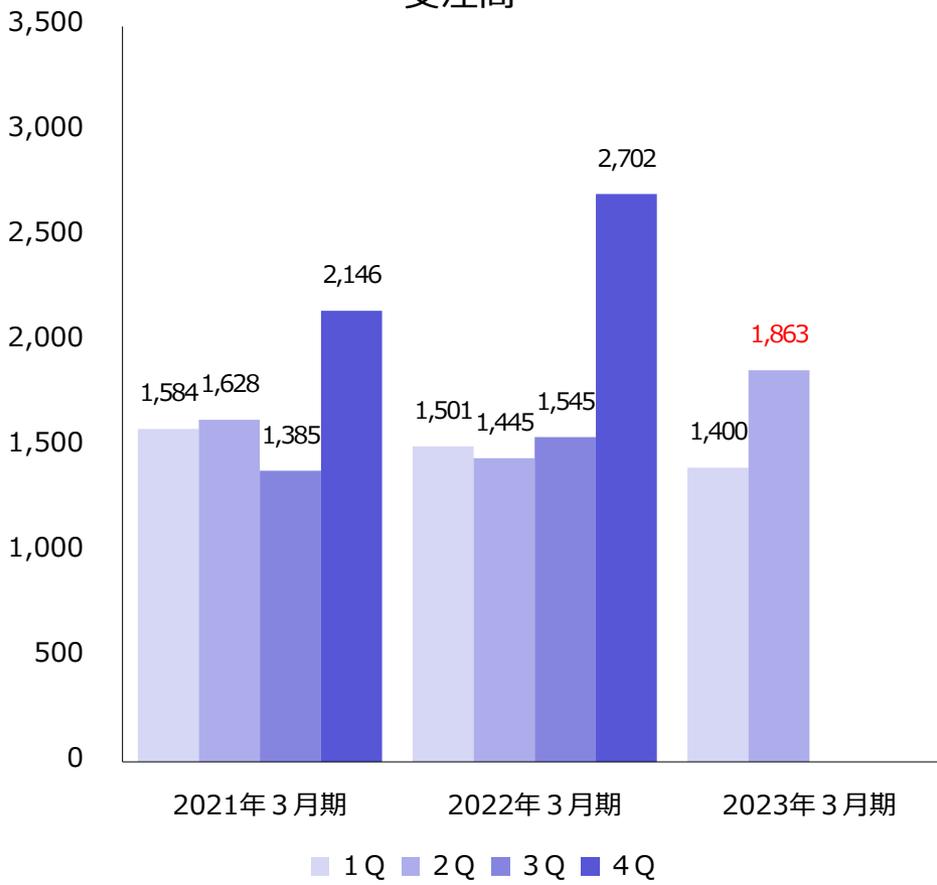
売上高 営業利益 営業利益率

# 四半期業績推移（受注状況）

受注高は過去 2 位、受注残高は過去最高

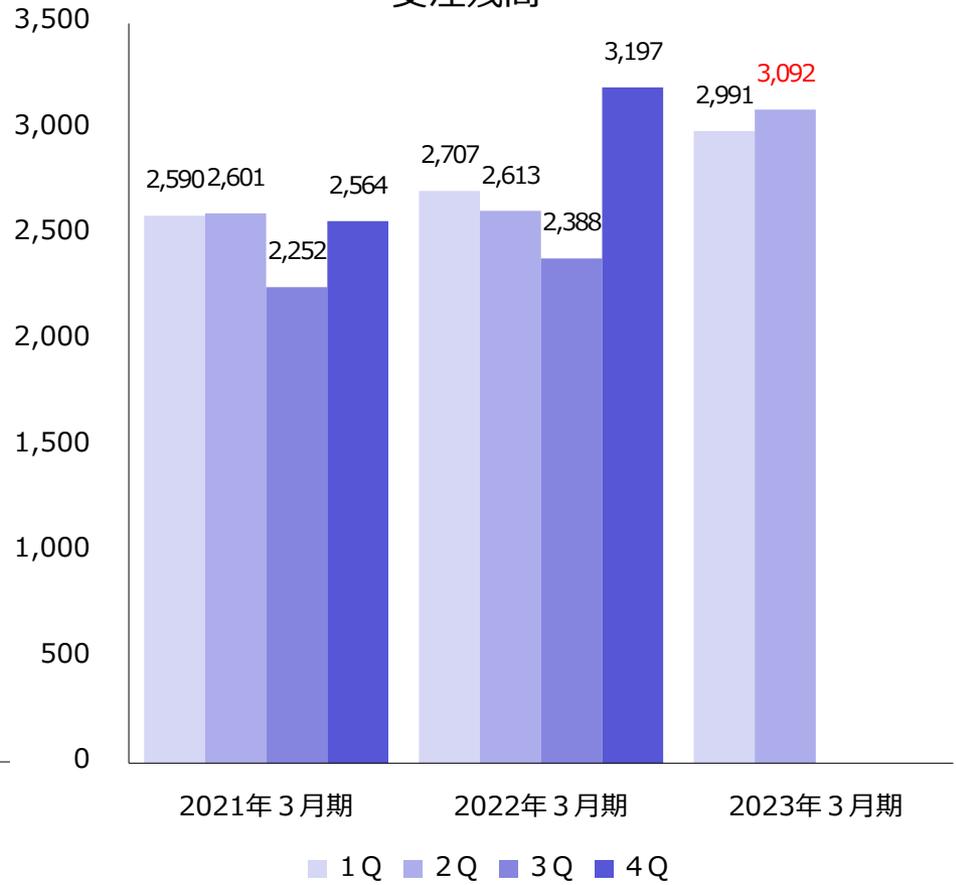
(単位：百万円)

### 受注高



(単位：百万円)

### 受注残高



# 第2四半期BF別の状況

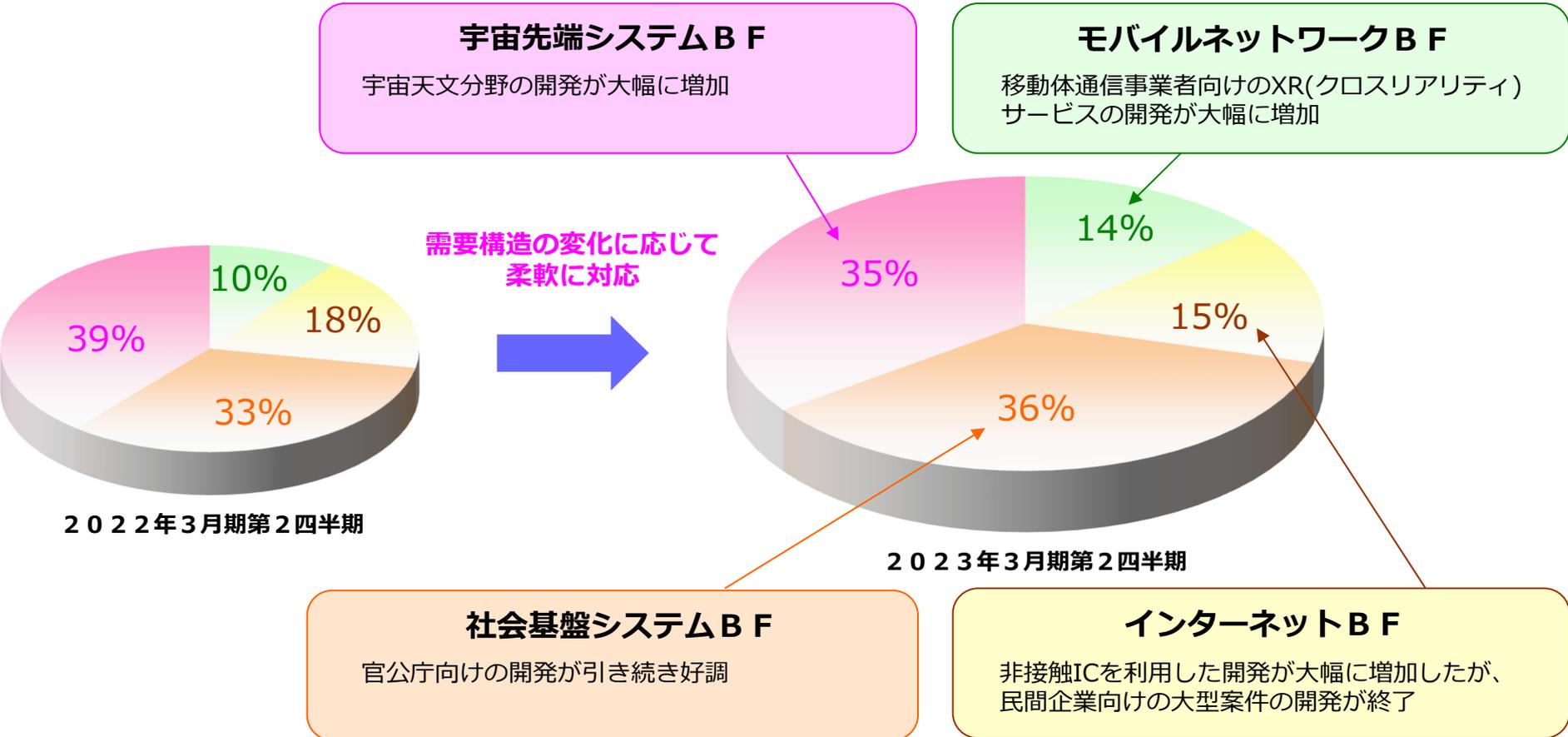
## モバイルネットワークBF、社会基盤システムBFが大幅に増加

ビジネスフィールド	2022年3月期第2四半期		2023年3月期第2四半期		
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	283	9.8	467	13.9	164.7
インターネット	538	18.6	519	15.4	96.5
社会基盤システム	949	32.7	1,202	35.7	126.7
宇宙先端システム	1,125	38.9	1,179	35.0	104.7
合計	2,897	100.0	3,369	100.0	116.3

- モバイルネットワークBFは、移動体通信事業者向けのXR(クロスリアリティ)サービスの開発が大幅に増加
- インターネットBFは、非接触ICを利用した開発が大幅に増加したが、民間企業向けの大型案件の開発が終了
- 社会基盤システムBFは、官公庁向けの開発が引き続き好調
- 宇宙先端システムBFは、宇宙天文分野の開発が大幅に増加

# 第2四半期BF別構成比

## モバイルネットワークBFと社会基盤システムBFが拡大



# 第2四半期のB F 別受注状況

## モバイルネットワークBFがXRサービスの受注により大幅に増加

ビジネスフィールド	2022年3月期第2四半期		2023年3月期第2四半期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	前期比 (%)	受注残高 (百万円)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	270	146	572	211.2	350	238.9
インターネット	517	346	471	91.2	242	70.1
社会基盤システム	955	1,461	973	102.0	1,774	121.4
宇宙先端システム	1,203	658	1,246	103.6	723	109.9
合計	2,946	2,613	3,263	110.8	3,092	118.3

(受注残高のうち、今期の売上高に貢献するのは2,463百万円、前期(2,042百万円)と比較し20.6%の増加)

- モバイルネットワークBFは、移動体通信事業者向けのXR(クロスリアリティ)サービスの受注が大幅に増加
- インターネットBFは、前期の民間企業向けの大型案件の反動で受注が減少
- 社会基盤システムBFは、防衛をはじめとした官公庁案件の受注が増加
- 宇宙先端システムBFは、宇宙天文分野の受注が増加

# 2023年3月期 通期業績見通し

# 2023年3月期業績見通し（変更なし）

上期は計画を上回り、商談状況は堅調だが、  
需要構造の見通しが不透明であるため、業績予想は据え置く

（単位:百万円）

	2022年3月期 実績	2023年3月期 業績予想	前期比 (%)
売上高	6,560	6,950	105.9
売上原価	4,585	4,890	106.6
売上総利益	1,974	2,060	104.3
販売管理費	912	990	108.5
営業利益 (営業利益率)	1,062 (16.2%)	1,070 (15.4%)	100.7
経常利益 (経常利益率)	1,107 (16.9%)	1,130 (16.3%)	102.1
当期純利益	780	785	100.6

売上高 受注残高が前期を上回っているため、前期比約6%増の計画

売上原価 社員数増加による人件費の増加、イノベーション促進のための投資（増床、設備投資）により増加を見込む

販売管理費 研究開発への投資、増床による家賃の増加などを見込む

営業外損益 国の研究機関からの受託研究による補助金収入により増加を見込む

当期純利益 前期に適用のあった税額控除がないため、微増となる見込み

# 2023年3月期B F別業績見通し

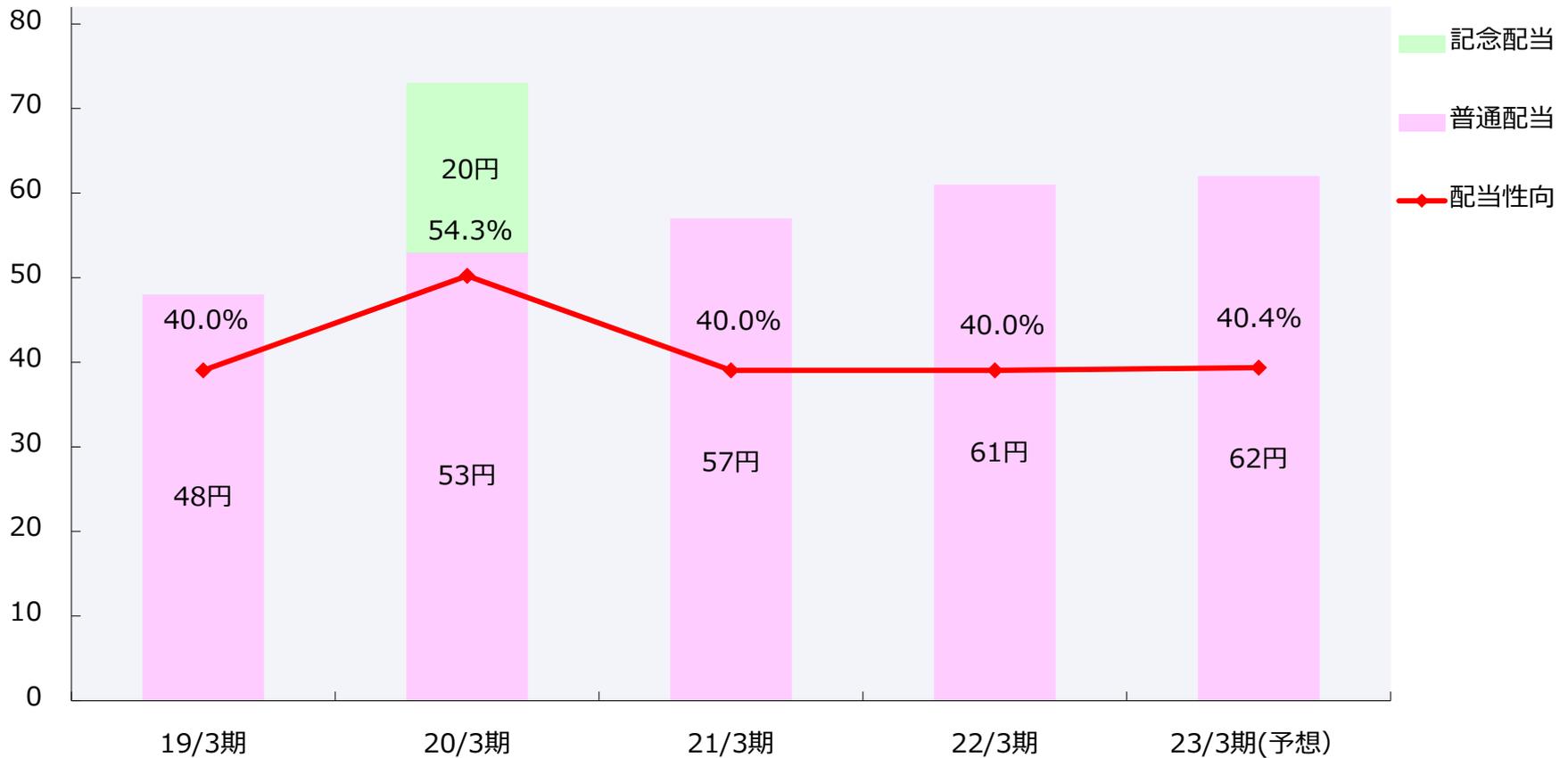
## モバイルネットワークB F、社会基盤システムB Fが増加する見込み

ビジネスフィールド	期初の想定	予想	第2四半期状況判断	予想
モバイルネットワーク	移動体通信事業者向けのサービス系などの開発が回復基調となり、増加	➡	移動体通信事業者向けのXRサービスの開発が大幅に増加し、想定を上回る展開	➡
インターネット	非接触ICを利用した行政の電子化に関する開発が期待できるが、他のB Fとの人員配分の最適化により、減少	➡	非接触ICを利用した開発が大幅に増加したものの、民間企業向けの大型案件が終了し、ほぼ想定どおりの展開	➡
社会基盤システム	官公庁系の開発が引き続き堅調で、増加	➡	官公庁系の開発が堅調で、ほぼ想定どおりの展開	➡
宇宙先端システム	車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が堅調、宇宙天文分野の開発も堅調に推移し、増加	➡	ロボットの研究開発案件が計画変動により減少したが、宇宙天文分野の開発が大幅に増加し、全体では微増を見込む	➡

# 配当の方針

## 配当性向40%を目安とし、前期比で每期増配の方針

2023年3月期は1株当たり62円の配当予想とする。



# 第2四半期のIRニュース一覧（抜粋）

- 東京大学とセック、建築空間や都市空間において、「人々の交流が生まれやすいホットスポット」の場所を、色の濃淡としてリアルタイムに可視化するソフトウェア「Convex Space Visualizer」を公開（2022/09/14）
- 特定のメーカーやクラウドサービスに依存することなく、異なるメーカー・異なる用途の自律移動型ロボットを一括管理・運用できる環境を実現する、自律移動型ロボット協働パッケージ「RTakt」（アールタクト）を発売開始（2022/08/17）
- アストロスケールとセック、商業デブリ除去実証衛星「ADRAS-J」に関するマーケティングパートナーシップを締結（2022/08/02）
- 多様な働き方に対応し、イノベーションを促進する環境を実現するため、本社オフィスを増床（2022/04/25）
- 国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の公募事業「高効率・高速処理を可能とするAIチップ・次世代コンピューティングの技術開発」の追加公募に、九州工業大学などと共同で提案・応募し、委託先として採択（2022/04/25）

- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものでなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。